

目標(13)

一人ひとりを認め合いその人らしく
暮らせるまちづくりを進めます



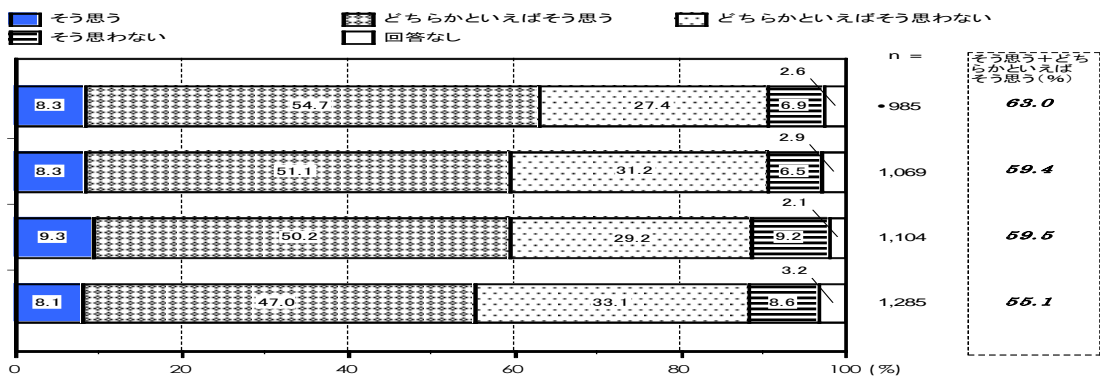
▲ポッチャ大会の様子

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	今、地域の中には、「近所に知り合いがいない」、「行き場がない」、「独り暮らしで病気になったときは不安」といった問題を抱え、地域で孤立する人が増えています。地域・事業者・関係機関と連携して、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく、安心して心豊かに暮らせるまちづくりを進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちのあちらこちらで気軽にあいさつを交わしたり、交流やふれあいの光景が見られます。 ◇ 多くの市民が、地域での支え合いの担い手として活躍しています。 ◇ 障がい等のある方と障がい等への理解を深めた市民が、地域でともに支えあい、誰もが住み慣れた地域で、その人らしくいきいきとした生活を送っています。 ◇ 地域や関係機関と連携し、ともに支えあっていく福祉のネットワークづくりが進んでいます。

2. 市民意識調査結果

【設問】一人ひとりを認め合い、高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちだと思う



3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) ボランティアひろばセンター登録数(人口1万人当たり)	2) 不安や悩み事を身近に相談できる人や場所があると思っている人の割合	3) 地域で高齢者や障がい者等の見守りや生活の手助けをしている人の割合
<p>H25 目標値 470人</p> <p>H22: 385人, H23: 395人, H24: 402人, H25: 418人</p>	<p>H25 目標値 80%</p> <p>H22: 76.9%, H23: 71.6%, H24: 76.0%, H25: 75.9%</p>	<p>H25 目標値 30%</p> <p>H22: 26.5%, H23: 24.1%, H24: 24.7%, H25: 22.4%</p>

4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

- ◆市民意識調査結果は伸びており、目標達成に向けての方向性に基ついた取組みの成果がでている。
- ◆指標の1)は伸びているが、目標値には達していない。これは、いきいき健康マイレージの登録者数が見込みより少なかったためである。
- ◆いきいき広場の相談件数は増加傾向にあるが、2)と3)の指標は減少傾向のため、今後は市民がより身近に感じられるような相談体制の構築と、地域における支えあいの意識を高める効果的な取組みが必要である。

II. 目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★子どもの育ちを一貫して見守り、支援するため、こども発達センターを関係機関と連携して設置します。	①こども発達センターを開所し、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士及び発達専門相談員を配置した。	H23.4～H26.3
	②保健師や専門職による相談支援を実施した。	H23.4～H26.3
	③小学校就学前の健診機会として、新たに5歳児健診を実施した。	H23.6～H26.3
★チャレンジの「働きたい」の実現に向け、支援体制を整えます。	①障害者相談支援事業所に、総合コーディネーターと就労担当相談員を配置した。	H23.4～H26.3
	②職場開拓に向け企業121社をリストアップし、順次企業訪問を実施した。	H23.7～H25.3
	③一般就労しているチャレンジに対し、継続して就労できるように定着支援を実施した。	H23.6～H26.3
☆「高浜市地域福祉計画」に基づき、「つながり、支えあい、安心のしくみづくり」を進めます。 ☆地域や当事者などが連携して福祉イベントを創出するなど、福祉に対する理解を広く促進するとともに、顔が見える関係づくりを行います。	①地域における見守り等の担い手を育成するとともに新たな人材を発掘するための「生活支援サポーター講座」を開催した。	H23.4～H25.3
	②「ポッチャ大会」や「ポッチャ出前講座」などの実施を通して、交流の機会を創出した。	H24.11～H26.3
	③高浜南部まちづくり協議会と協働で「青空市」（買い物弱者への買い物支援策）を毎週日曜日に開催した。	H25.11～H26.3
☆手助けが必要な人に対して、地域や関係機関と連携して、各々の事情に合った適切な支援や相談を受けられる体制を整えます。	①要援護者の見守りとして各種ネットワークを構築した。	H23.8～H26.3
	②地域包括支援センター職員に地区担当制を導入し、まち協事業に参加した。	H24.4～H26.3
	③権利擁護推進センター設置に向けての検討会を開催した。	H25.3～H26.3

III. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
①障がい者施策 ・生涯にわたって住み慣れた地域で不安なく生活できる環境整備が必要である。	◇ 緊急時や親亡き後も不安なく暮らせるよう、平成28年度を目途に、民間活力を導入し施設を整備するとともに、障がい者についての地域における理解や交流を促進するため、平成26年度から地域の中で交流できる場や活動機会を創出する。
②地域福祉の担い手養成と活躍の場の創出 ・地域で孤立し、困りごとを抱えながらも誰からの支援も受けられない方が増加しているが、その対策が十分でない。	◇ 地域で困りごと支援を行っていただく方の計画的な養成に取り組むとともに、具体的な支援の場を提供するなど、実際に活躍していただく場の創出に取り組む。
③認知症への対応 ・認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を見守る必要がある。	◇ 生活機能評価の実施など、認知症を早期発見・早期支援する取組みを進める。 ◇ 相談支援体制の充実に向け、権利擁護推進体制を構築する。 ◇ 計画的に「認知症サポーター」養成講座を実施する。

IV. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント